

2025年2月2日(日) 第二礼拝「終わりの日の準備」 I ペテロ 4章7～11節

「終わり」には、世界的な終わり(終末、イエス様の再臨)と、寿命が尽きる個人的な終わりがあります。その終わりのために、聖書は三つのことを準備するように言っています。

第一番目、祈りです。「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。」(本文7節)「祈り」とは、御言葉を求めることです。つまり、御言葉が私たちの思いと一つとなり、神様の御心(御言葉)が天になるごとく、地にもなるように求めることです。サタンの欺きや不法がはびこる今、絶えず祈り、しっかりとした信仰生活を築き上げましょう。そうするなら、私たちの中に御国(幕屋)が建てられ、神様の御声を親しく聞く者とされ、この世の教えや宗教を判別することができます。イスラム教徒はラマダンを通して信念を貫き、その教えを広げようとします。しかし、私たちはこの世の教えや宗教に惑わされず、福音の土台に固く立ち、信仰を持ち、真理の御言葉を握り、祈りましょう。

第二番目、愛することです。「愛は多くの罪をおおうからです。」(本文8節) 私たちは真理を愛し、不法を憎みます。異端の教えや同性愛などの誤った価値観を持つ人に対して、その人が犯す罪(不法)を憎みますが、その人自体は愛すべき存在です。イエス様が十字架を通して人の罪を赦されたように、私たちもまた、彼らの罪を忘れ、憐れむ心を持ち、彼らが悔い改め、イエス様に立ち返るように祈ることが大切です。

量子力学では、愛や赦しの大切さが語られています。「思い」が微粒子の動きに反映され、それが現実になり、人や物を引き寄せることが研究で明らかにされました。相手に憎しみを持つなら、その負のエネルギーは自分に返ってきます。アルコール中毒やDVの親を憎んでいる人は、自分の憎むタイプの配偶者を選んでしまいます。無責任な人が嫌いな人は、無責任な人と出会います。怒りっぽい人が嫌いな人は、怒りっぽい人を引き寄せます。周波数が合うからです。ここで、聖書は「赦し」を強調します。愛は赦しです。赦しとは、相手の罪や自分が受けた傷を忘れることです。私たちが人を赦すなら、人を愛し赦す人や、助け手となる人など、良い人たちが引き寄せられ、巡り会うのです。

第三番目、奉仕です。「それぞれが賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、その賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。」(本文10節) 神様が私たちに賜物(タラント)を与えてくださった理由は、他の人たちを幸せにするためです。聖書には、五タラント、二タラント、一タラントをもらった人たちの話が出てきます(マタイ25:14～30)。賜物を用いて、他の人たちのために一生懸命に祈り、奉仕をする時、五タラントを持つ人は更に五タラント増え、二タラントを持つ人は更に二タラント増えます。一タラントを持つ人は、神様に不平不満を持ち、人に対する愛がなく、何もしなかったため、外の暗闇の世界に追い出されてしまいました。神様から賜物をもらっていない人は、一人もいません。「神様からいただいた賜物を用いて、他の人を幸せにし、助ける者としてください」と祈り求めるなら、神様が賜物を更に増やし、祝福してくださいます。アーメン!